朝日新聞 ならしの朝日
NARASHINO ASAHI
【毎月5日発行＝朝日新聞のASAからお届けします】
第947号
2022年（令和4年）5月5日

ならしの朝日新聞社
発行人　秋本　満
〒275-0026 習志野市谷津4-3-17
電話　047(454)2355
FAX　047(454)2357
編集・広告　習志野朝日株式会社
売価200円（税込）

習志野ベイドリームス初優勝

習志野市少年野球新人大会

第26回習志野市少年野球新人大会が3月26日から4月3日まで、第一カッター球場で開かれた。

開会式では参加13チームの選手を代表して実籾クラブの福田翼主将が「まだコロナがまん延している中、思うように練習ができない時がありました。そんな中、この大会が開催されることに感謝し、一球、一球、全力でプレーすることを誓います」と宣誓した。

ルール改正が行われ、今季から試合のイニング数が6回（タイムゲーム最優先）までとされた。

4日間にわたる対戦の結果、習志野ベイドリームスがこの大会で初優勝を遂げた。習志野ベイドリームスは5月29日から開催予定の第42回全日本学童軟式野球大会千葉県予選大会に出場する。

大会結果は次の通り。

▽1回戦

藤崎シークレット 12―2 ならしのフレンズ
津田沼少年野球団 4―1 大東あづまヤンチャーズ
習志野フェニックス 7―5 実花レジェンド

▽2回戦

藤崎シークレット 8―1 津田沼少年野球団
向山ファイターズ 6―0 実籾クラブ
鷺沼マリーンズ 8―0 袖ケ浦ボーイズ
習志野ベイドリームス 3―2 習志野フェニックス

▽3回戦

谷津サザナミ 8―6 向山ファイターズ
鷺沼マリーンズ 9―2 大久保フロッグス

▽準決勝戦

習志野ベイドリームス　0 4 0 6 10
藤崎シークレット　0 0 0 0 0

鷺沼マリーンズ　0 0 0 0 0 0 0
谷津サザナミ　1 0 0 1 1 × 3

大会最終日の準決勝戦は降雨の中、行われた。

準決勝戦第1試合は、習志野ベイドリームスと藤崎シークレットが対戦。ベイドリームスは2回、四死球と齋藤の安打などで4点。4回には檜山の安打に相手エラーもあって6点を奪い、勝負を決めた。

準決勝戦第2試合は、鷺沼マリーンズと谷津サザナミとの顔合わせとなった。

サザナミは初回、先頭の清田が中前安打と連続盗塁で三塁に進み、岡田の内野ゴロの間にかえり先制。4回には連続四球から、5回には金子の左中間三塁打から得点し、勝利した。

▽決勝戦

谷津サザナミ　1 1 0 0 0 0 0 2
習志野ベイドリームス　0 0 0 0 0 0 2 1× 3

▽バッテリー＝岡田、金子―清田（サザナミ）三國、齋藤、長洞―長洞、檜山（ベイドリームス）

▽二塁打＝金子（サザナミ）長洞、佐藤（ベイドリームス）

▽三塁打＝金子（サザナミ）

サザナミは2番金子が右中間三塁打。4番山本の左前適時打で1点。2回表には6番赤荻が振り逃げで出塁し、盗塁。7番竹田の内野ゴロで進塁し、8番桑谷の打席に悪投球でかえり2点目を挙げる。

ベイドリームスは1回裏、先頭の長洞が左前安打で出塁し、その後、三塁まで進むが無得点。2回裏には先頭の5番三國が右前安打、7番佐藤も右前安打で一死走者一、二塁の好機だが二者残塁。3回表には先頭の長洞が左越二塁打とボークで三塁まで進むが後続なく無得点に終わる。サザナミは安打は出るが得点に結びつかず、5回表には金子の安打などで二死ながら走者一、三塁とするが得点できない。

サザナミの2点リードで迎えたベイドリームスの最終回の攻撃。3番木村が左翼線安打、続く4番檜山は左前安打で無死走者一、二塁。三國は外飛だが、エラーで満塁の好機を迎える。一死後、佐藤の当たりは右前安打となり、檜山と三國が相次いでかえり同点に追いつく。続く8番宮崎は敬遠で満塁は続くが、サザナミ継投の金子が抑え、試合は一死満塁からの特別延長戦に突入する。

延長戦の7回表、サザナミは無得点。7回裏、ベイドリームスは2番齋藤から。齋藤はヒッティングから切替えバントスクイズ。三塁から代走の三田が本塁を奪い、ベイドリームスが延長サヨナラ勝ちした。

習志野ベイドリームスの木村勇之介キャプテンは「優勝を目指して挑み、最初は緊張しました。決勝戦、1回、2回に点を取られましたが、あきらめずに戦い、打線をつなぎ、チームが一つになって優勝することができました。もっと練習を重ね、強いチームになりたい」と話した。

優勝の習志野ベイドリームス

準優勝の谷津サザナミ

第3位の藤崎シークレット

第3位の鷺沼マリーンズ

春季全日本小学女子ソフト

習志野スーパーガールズ健闘

第15回春季全日本小学生女子ソフトボール大会に出場した千葉県代表の習志野スーパーガールズはベスト16と健闘した。

大会には全国各地から39チームが参加。新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、3月26日から29日まで、坊っちゃんスタジアムのある愛媛県松山市の松山中央公園運動広場を中心に開催された。

初日は雨天順延となり、習志野スーパーガールズは27日、富山県代表の鵜坂（うさか）スポーツ少年団ソフトボール部と対戦した。この試合、吉田彩良の三塁打、高久ヒカリの二塁打などで得点。西沢美和の好投で、12―3と勝利し、ベスト16となり、3回戦に駒を進めた。

翌28日は、東京都代表の石神井スマイルと対戦。4点をリードされた5回に磯崎柚月の三塁打などで4点を返し同点としたが、今大会で準優勝となった石神井スマイルに8―4で敗れた。大会では東京都代表のオールあきる野女子が優勝した。

チームを率いた野村慎一監督は「保護者をはじめ、多くの方々からのご支援のもと、選手たちは力一杯プレーしました。この全国大会に向けて、選手たちはひたむきに努力を重ね、大会においても力を発揮し、千葉県に習志野ありと示すことができました。開催が危ぶまれた大会でしたが、子どもたちにとって、ソフトボールを通じた様々な体験は、これからの人生の中で、大きな財産になったことと思います。新年度がスタートしましたが、夏の全国大会千葉県予選は、5月の連休中に開催されます。選手一同、さらなる高みを目指し、がんばっていきます」と述べた。

（資料・写真提供＝習志野市ソフトボール協会）

ベスト16となった習志野スーパーガールズ